

茨城大学学報

第326号

平成28年4月～平成28年5月



平成28年度入学式

INDEX

- ◆ 大学院理工学研究科に量子線科学専攻を開設 記念式典を開催
- ◆ 平成28年度入学式
- ◆ 熊本出身の新入生らが地震被災者支援の募金活動
- ◆ 人文学部・小美玉市地域連携協定記念事業
「ダイヤモンドシティ・プロジェクト キックオフミーティング」を開催
- ◆ 工学部の「Hitachi Sea-Side Project」日立駅で空間展示の実験を実施
- ◆ 「地域おこし協力隊」と学生などとの意見交換会
- ◆ サステナビリティ教育交流 タイのプーケット・ラチャパット大の学生が初来校
- ◆ 茨城大学名誉教授称号授与式・懇談会を開催

茨城大学広報室

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 大学院理工学研究科に量子線科学専攻を開設 記念式典を開催

茨城大学では、平成 28 年 4 月より大学院理工学研究科に「量子線科学専攻」を新しく設置しました。4 月 5 日（火）、設置を記念した式典を、東海村のいばらき量子ビーム研究センターにおいて開催しました。

大学院理工学研究科では、平成 16 年度に応用粒子線科学専攻を設置して以降、中性子を利用した新材料開発や生命現象の解明に多くの成果をあげてきました。平成 20 年に J-PARC（大強度陽子加速器施設）が建設・稼動されてからは、中性子線と X 線を相互に補完しながら活用した研究の有用性が高まり、茨城県をはじめとする地域から、量子線（中性子線・X 線・ミュオン粒子線など）を機軸とした教育研究体制への展開が求められるようになってきました。

これらを踏まえ、量子線科学分野における学内の人的資源を集中させるとともに、近隣の日本原子力研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構、量子科学技術研究開発機構等に所属する最先端の研究者との連携をより強化することで、全国的にもユニークな「量子線科学専攻」を開設しました。同専攻は、環境放射線科学コース、物質量子科学コース、化学・生命コース、ビームライン科学コースの 4 つのコースを設け、生物学、物理学、化学・生命工学、加速ビームライン科学など、各コースの基礎となる専門知識をもちながら、量子線をツールとして活用できる人材の育成と先端的イノベーションの創出を目指します。

量子線科学専攻設置記念式典は、茨城県の橋本 昌 知事、東海村の山田 修 村長に加えて、文部科学省から高等教育局の土生木 茂雄 視学官を来賓に迎え、同専攻の“第一期生”である博士前期課程、博士後期課程の約 120 人の大学院生の出席のもと開催されました。

式典で茨城県の橋本知事は、「科学技術イノベーション立県をめざす本県において、一番必要なのは人材育成。新入生の皆さんには、新しい専攻の発足にふさわしい研究・学問に励んでほしい」と述べました。また、山田東海村長は、「全国で唯一の専攻ができたのは嬉しい。原子力研究の発祥の地である東海村に新しい風が吹かせてほしい」と話しました。さらに、文科省の土生木視学官は「量子線科学分野における、全国的な教育研究拠点として、原子科学や放射線科学の分野で活躍できる人材を育成するとともに、世界最先端の教育研究を展開し、より一層社会に貢献されることを期待している」と挨拶をしました。

その後は、馬場 充 理工学研究科長が新専攻設置の趣旨と概要について説明するとともに、齊藤 直人・J-PARC センター長が「J-PARC 大強度量子ビームで拓く知のフロンティア」と題した特別講演を行い、新入生、教員たちが熱心に耳を傾けていました。



式典であいさつをする橋本昌・茨城県知事



馬場研究科長による説明

◆ 平成28年度入学式

4月6日（水）、平成28年度茨城大学入学式が挙行されました。

今年度は、例年の茨城県武道館から茨城県民文化センターに会場を移し、二部制で行われました。第一部では理学部、工学部、農学部、大学院理工学研究科、農学研究科、第二部では人文学部、教育学部、大学院人文科学研究科、教育学研究科、特別支援教育特別専攻科の学生が出席しました。

式は、国歌吹奏、各学部等総代の誓書提出にはじまり、学長式辞、来賓祝辞、役員・学部長等の紹介と続き、入学生代表宣誓（第一部では理学部・佐藤美和子さん、第二部では教育学部・栗崎裕野さん）より宣誓がありました。最後に参列者全員による校歌斉唱で閉式となりました。学部・大学院・専攻科をあわせて2,265名人の新入生が、新たな知の探求とキャンパスライフをスタートさせます。



◆ 平成28年度入学式（学部・専攻科）学長式辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

茨城大学を代表して、皆さんを心から歓迎します。また、ご家族、関係者の皆様も、さぞお喜びのことと思います、お祝いを申し上げます。この春の美しい季節に、2,265名の新入生を迎えることができ、大変うれしく思っています。

さて、新入生の皆さんは、茨城大学での学生生活に対して、様々な期待と不安を持っていると思います。そこで、大学とはどういうところか、あるいは、茨城大学ではどのような教育を目指しているのかについてお話ししたいと思います。

大学や大学院を卒業すると、皆さんは社会に飛び立ちます。つまり、大学は、教育の最後の段階において社会に飛び立つ準備をするところです。人類は長く学問の成果を積み重ねてきました。大学は、この学問の成果を皆さんに伝えると同時に、時代の変化に合わせた教育への転換が必要だと考えています。

私達が生きているこの21世紀は、かつてない変化の激しい時代です。現代は、時代の転換期にあると言っていいでしょう。例えば、グローバル化によって世界が一つの経済圏に統合されつつあり、今や国境を越えた経済活動や競争が当たり前になっています。その一方で、各地における紛争やテロの続発、地球温暖化や水問題など地球規模の環境問題が生じています。また、人工知能などの情報技術の発達は極めて急速で



あり、20年後には65%の人が今はまだ現れていない仕事をしているだろうという予想さえあります。日々の変化は余り感じなくても、5年10年のスパンで見ると、社会は大きく変化している訳です。皆さんには、本学での4年間で、こうした変化の激しい21世紀の社会を前向きに切り拓いていけるたくましい人間に成長して欲しいと期待しています。

それでは、そうした時代の転換期に必要な能力はどういうものでしょうか。単に知識を沢山持っているのでは十分ではありません。

茨城大学では、時代の要請に応じた新しい教育の目標を示すため、昨年、ディプロマ・ポリシーを策定しました。ディプロマ・ポリシーとは、卒業までに到達すべき教育目標のことであり、茨城大学のどの学部、大学院研究科を卒業したとしても、身につけるべき5つの能力を決めたものです。その5つの能力とは、第一が、世界の俯瞰的理解（自分の中に世界の見取り図を作るということ）、第二が、専門分野の学力とスキル、第三は、課題解決力・コミュニケーション力、第四は、社会に貢献しようという姿勢、そして、第五が、地域活性化に向けた志向です。

専門分野の知識・スキルを大学で学ぶことは、自分の軸を確立すること、深い分析能力を獲得することを意味し、基本的に重要です。同時に、知識を仕事や行動に活かすには、幅広い世界の見方や、外国人を含む他の人たちとのコミュニケーション力が重要になってきます。さらに、社会の安全や持続的な発展に寄与しようという志、つまり、社会に貢献しようという利他的精神を持つことが重要だと考えています。

このように考えて、本学のディプロマ・ポリシーを決めました。一言で言うと、「変化の激しい21世紀において、未来を切り拓くことのできる総合的人間力を育成する」という目標です。私は、皆さん誰もが、この目標に向かって幅広い勉学に取り組んでほしいと考えています。

その目標に向かって、現在、本学では大きな改革を進めているので、その内容を少し紹介しましょう。グローバルな活躍を目指す人には、実践英語教育や海外留学につながる教育プログラムがあります。1年生全員がTOEICという共通の英語検定試験を受け、自分の学習成果を測ることができる機会を提供しています。また、新入生に必修の「茨城学」という講義を始めました。この講義では、本学の教員と地元の自治体や企業で活躍する講師が、地域社会の生きた課題を紹介し、その後で皆さんと議論を行います。また、多くの講義を、アクティブラーニングという学生の参加型のものに転換しています。そのため、事前にテーマを調べてきたり、教室で学生同士が議論したりする機会が格段に増えるはずですよ。



さらに、来年度からは、クォーター制を導入します。現在の学年暦は、前期、後期の2学期制です。これを、年4回のクォーターと2つの学期を併用する新しい学年暦に移行する準備を進めています。これによって、皆さんが海外留学や学外での研修に行きやすいようにする計画です。この他にも多くの改革を準備しているので、詳しい内容は、新入生ガイダンスで説明します。

次に、皆さんにどのように大学生活を過ごして欲しいかについてお話しします。

大学が高校までと一番違うのは主体性の重視です。例えば、授業には選択科目が沢山あります。そのため、カリキュラムは自分で組み立てなければなりません。また、時間割には講義のない時間帯が出てきます。そうになると、空いた時間には、図書館のラーニング・コモンズなど自由に使えるスペースで、自ら勉強することになります。つまり、名実共に、大学生活の主人公は皆さん一人一人であり、生活時間の全てを自分で管理することになります。もちろん、クラス担任がいますし相談窓口もあるので、遠慮無く相談して下さい。大人になるとは、主体的な人間になるということですが、本学でその第一歩を踏み出して欲しいと思います。

第二は、友人を沢山作って欲しいということです。大学の友人は、とてもいいものです。生涯の友になる大切な人も出てくるでしょう。大学では正規のカリキュラムの他に、「隠れたカリキュラム」と呼ばれるものもあります。これは、サークルやボランティア活動、あるいは、先生や友人との語らい、読書、新聞を読むこと等ですが、こうした大学生活の全てが、自立した人間へと成長する機会になります。私は、皆さんが、正規のカリキュラムと隠れたカリキュラムの両方、つまり、茨城大学での全ての勉学と生活を通して、変化する 21 世紀を生き抜ける人間、さらに、よりよい社会を作るリーダーに成長することを心から期待しています。

今年は、75 名の外国人留学生が入学しました。中には、まだ英語の方が分かり易いという人もいるので、簡単に英語で歓迎の言葉を述べたいと思います。

There are 75 foreign students attending this ceremony. Therefore, I would like to offer congratulations to them in English. On behalf of Ibaraki University, I am extending my sincere welcome to you all. We are very much pleased to have foreign students as new members of our university in this beautiful season, April. We have prepared many courses which you can find attractive and suitable for your study. I hope you can achieve the goals of your studies, and enjoy the campus life at Ibaraki University.

以上をもって平成 28 年度入学式における式辞と致します。

2016 年 4 月 6 日 茨城大学長三村信男

◆ 熊本出身の新生生らが地震被災者支援の募金活動

熊本県を中心に九州地方で相次いでいる平成 28 年熊本地震をめぐり、茨城大学の学生たちも被災者支援のための募金活動を始めました。

募金は、東日本大震災発生以降、東北地方などで支援活動が続けているボランティアサークル「フルール」の学生たちが提案し、今年 4 月に入学した熊本県出身の学生などにも声をかける形で始まりました。学生たちは、募金箱を手にして水戸キャンパスの福利センター前に立ち、昼休みの間、往来する学生や教職員たちに協力を呼びかけました。活動初日となった 4 月 20 日（水）は、多くの人たちが足を止めて募金に協力し、4 万円以上の寄付が集まりました。これらの募金は同大学生生活課で保管した上で、「フルール」が日本赤十字社に熊本地震災害義援金として振り込む予定です。募金については、まずは 4 月末まで続けるということです。

活動に参加した熊本県出身の学生は、「自分の家は大きな被害がなかったが、熊本県民ががんばっている姿を知ってもらいながら、地震で被災した熊本・九州のために協力できることはしたいと思った」と話しました。



◆ 茨城大学人文学部・小美玉市地域連携協定記念事業
「ダイヤモンドシティ・プロジェクト キックオフミーティング」を開催

昨年 9 月に人文学部と茨城県小美玉市との間で地域連携協定を締結したことを記念し、4 月 24 日（日）、「ダイヤモンドシティ・プロジェクト キックオフミーティング」と題した記念事業を、小美玉市との共催で開催しました。当日は、一般市民、自治体職員に学生らも加わり、220 名を超える参加があり、立ち見が出るほどの盛況でした。

第 1 部のセレモニーでは、島田穰一小美玉市長と佐川泰弘茨城大学人文学部長からの挨拶の後、小美玉市の地方版総合戦略である「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」の概要が紹介されました。また人文学部社会科学科 4 年の学生も登壇し、「世界の創生トレンド～6 者連携と世界戦略～」というテーマで日頃の研究成果を報告しました。

続く第 2 部は、人文学部の馬渡 剛 教授の司会のもと、「しゃべり場『横並びからの脱却』」をテーマに、地域の宝と課題、若者の流出、雇用の創出について活発な議論がなされました。人文学部の 2 名の学生、農業団体代表、区長会代表、市地方創生ワーキングチーム・リーダーといった登壇者が、それぞれの立場から白熱した議論を繰り広げ、会場に詰めかけた聴衆からもさまざまな意見が飛び交いました。

最後に、島田市長と佐川学部長が、「討論者と聴衆との双方向性のある討論会は、極めて異例であると同時に、今後の茨城大学人文学部と小美玉市との直接の広がりにも明るい未来を予測させる有意義な試みであり、大学の知を地域に還元し、政策につなげる有意義な事業である。」と総括し、大盛況のうちに閉幕しました。

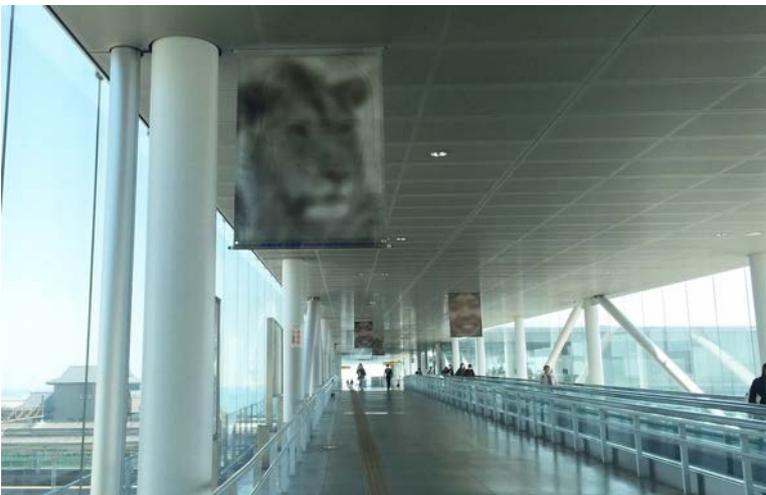
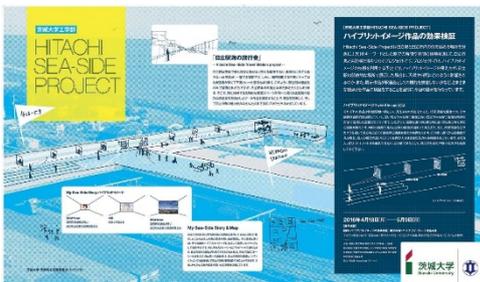


◆ 工学部の「Hitachi Sea-Side Project」 日立駅で空間展示の実験を実施

茨城大学工学部の一ノ瀬 彩 助教、矢内 浩文 准教授らは、現在、「Hitachi Sea-Side Project」と題した空間演出プロジェクトの企画を進めており、4月から5月にかけて、JR日立駅で空間展示の社会実験を実施しました。

「Hitachi Sea-Side Project」は、JR日立駅および日立市内の海を眺める空間を拠点に、「旅」をキーワードとしたさまざまな体験機会を創出するものです。このプロジェクトでは、対象との距離によって見えるものが変化する「ハイブリッドイメージ」という画像の展示を活用して、空間の歩行者、滞在者に不思議な認知体験をもたらします。ハイブリッドイメージとは、空間周波数が低い成分のみで出力した画像と、高い成分のみで出力した画像とをひとつの画面の中に合成したもので、画像を遠くから見るときと近くから見るときで異なる画像が見えます。また、中間の距離で見ると2枚の画像が混ざって見えます。

今後のプロジェクトの本格展開に向け、4月下旬から5月上旬まで、JR日立駅の自由通路において、実験的にハイブリッドイメージの展示を行いました。日立駅の開放的な場所で展示した場合、天候や日照にどのように影響されるのか、また、作品が駅通路の機能を妨害しないかなど、さまざまな観点から作品の検証をし、ブラッシュアップを図っていきます。



実験の様子

◆ 「地域おこし協力隊」と学生などとの意見交換会

5月18日（水）、茨城県内で活動している「地域おこし協力隊」のメンバーらと同大の学生とが一緒になって地方創生について理解を深める意見交換会を開催しました。

「地域おこし協力隊」は、都市部から地方への移住者に対して、自治体が「地域おこし協力隊員」として地域のプロモーションや住民の生活支援などの業務を一定期間委嘱することで定住促進を図る取り組みで、茨城県内でも多くの隊員が活動している。今回の同大での意見交換会は、茨城県内の各市町村で活動する隊員同士の所属自治体の枠をこえた連携を強めるとともに、共通のスキルや意識を高めることを企図し、茨城県地域計画課の職員が大学に提案して実現しました。

意見交換会は、同大人文学部の授業の機会を活用して行われ、地域おこし協力隊員や自治体職員と、学部生・大学院生とが一緒に学び、交流する場となりました。最初にグループディスカッション形式で参加者同士の理解を深め、その後は大手広告代理店から内閣府シティマネージャーとして茨城県内の2つの市町村に派遣されている深谷信介氏が、地方版総合戦略策定に関わった自身の経験も踏まえ、シティプロモーションの方法や考え方について講義を行いました。参加した地域おこし協力隊員からは、「これまで他の自治体の隊員と交流する機会がほとんどなかったので、良い機会になりました。他の自治体と比べることで所属する自治体の良さ、改善点がみつかると思える」といった感想が聞かれるなど、大学におけるこうした事業へのニーズが窺えました。

今回の意見交換会のコーディネートを担当した同大社会連携センター副センター長の西野 由希子・人文学部教授は、「外部の視点をもちながら地域に深く関わる『地域おこし協力隊』は、地域に埋もれがちな重要な課題に気づかせてくれる存在として、大学としても注目してきた。今回の会を契機に、大学をハブとしてネットワークを強化し、交流や研修の場をつくっていき

たい」と話していました。



研修会の様子

◆ サステナビリティ教育交流
タイのプーケット・ラチャパット大の学生が初来校

茨城大学は、タイのプーケット・ラチャパット大学（PKRU）との間で、サステナビリティをテーマにした教育交流を続けています。2009年からは茨城大学の学生・教員がタイを訪れ、PKRUの学生たちや現地の村の人たちと一緒に研究発表や交流を行ってきましたが、今年は初めて、PKRUのみなさんの来日が実現しました。

5月23日（月）に来日したPKRUのメンバーは、IGASの初代機関長としてPKRUとの事業を進めてきた三村信男学長を訪ね、談笑しました。その後、今夏PKRUへの訪問を予定している本学の学生たちとともに研究発表のワークショップを行いました。

翌日は廃棄物処理施設などを見学したあと、茨城町へ移動し、涸沼湖畔で箸づくりなどを体験。夜は涸沼に民泊し、町の方々と進行を深めました。



◆ 茨城大学名誉教授称号授与式・懇談会を開催

5月26日(木)、本学名誉教授称号授与式が事務局第2会議室で行われ、各理事、各副学長、各学部長が出席のもと、三村信男学長から新たに名誉教授となられた方々に称号記が手渡されました。

引き続き懇談会が行われ、近況報告を交えながら終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。



称号記を授与される神谷名誉教授

平成28年4月1日付けで本学名誉教授となられた方は、次のとおりです。

(元 理事・副学長(教育)) 伏見 厚次郎

(元 人文学部) 有泉 哲、神谷 拓平、斎藤 義則、真柳 誠

(元 教育学部) 金子 一夫

(元 工学部) 荒木 俊郎、山中 一雄

(元 農学部) 阿久津 克己、米倉 政実

(元 理工学研究科) 佐久間 隆

以上 11名(敬称略、元所属別・50音順)



称号授与式後の記念写真